

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「和室と洋室のよさをしょうかいしよう」 教材名「くらしの中の和と洋」

2 単元の目標

観点をそろえた比較や分類の仕方を理解し、要約のために必要な語句を記録できる。段落の説明と事例の関係を捉え、紹介の目的に合う中心となる語や文を選んで要約できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①観点をそろえた比較や分類の仕方を理解し、要約のために必要な語句を記録している。（〔知識及び技能〕(2)イ）	①「読むこと」において、段落の説明と事例の関係を捉え、紹介の目的に合う中心となる語や文を選んで要約している。（C(1)ア・C(1)ウ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

和室と洋室を同じ観点で比べ、紹介する目的に合う内容を要約する。よい悪いの順位を付けず、どの使い方にどの特徴が関係するかを段落の内容から捉える。学習指導要領のC(1)ア・C(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)イを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

観点を和室と洋室を列にして対応させる。本文の説明がない欄を推測で埋めない。要約した文を元の段落に戻して確かめ、出典の示し方を練習する。おおむね満足できる状況は、段落の説明と事例の関係を捉え、紹介の目的に合う中心となる語や文を選んで要約しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、比較されている事柄を確かめる。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○段落ごとに比べる観点を整理する。	知①（語句や内容の整理）
	3	○同じ観点の特徴と用途を対応させる。	学習状況を見て支援する。
	4 （本 時）	○紹介したいよさを選び、必要な説明を残して要約する。	思①（発言・学習記録）
	5	○原文と比べ、比較の条件が抜けていないか確かめる。	学習状況を見て支援する。
	6	○要約を使って紹介文を書く。	学習状況を見て支援する。
	7	○紹介を読み合い、観点とよさの関係が伝わるかを確認する。	学習状況を見て支援する。
第3次	8	○比較して要約する読み方を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (4/8)

(1) 本時の目標

段落の説明と事例の関係を捉え、紹介の目的に合う中心となる語や文を選んで要約できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「和室と洋室のどんなよさを紹介したいですか。同じ観点で比べたどの説明を残すと伝わりますか」 【めあて】和室と洋室を同じ観点で比べ、紹介する目的に合う内容を要約する。 〈予想される児童の反応〉 ・比べる観点が違うと、よさの違いが伝わらない。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「和室と洋室のどんなよさを紹介したいですか。同じ観点で比べたどの説明を残すと伝わりますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・比べる観点が違うと、よさの違いが伝わらない。 ・使い方によって利便さは変わる。 ・紹介の中心に合う事例を選びたい。	観点を、和室と洋室を列にして対応させる。本文の説明がない欄を推測で埋めない。要約した文を元の段落に戻して確かめ、出典の示し方を練習する。 想定する難しさ：自宅の部屋の好みだけで評価する。片方の特徴しか紹介しない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 段落の説明と事例の関係を捉え、紹介の目的に合う中心となる語や文を選んで要約している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・紹介の中心に合う事例を選びたい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「和室と洋室のどんなよさを紹介したいですか。同じ観点で比べたどの説明を残すと伝わりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

